

現状・課題

南海トラフ地震対策など大規模災害時の対応への関心が高まり、福祉避難所や防災拠点に指定されていない医療施設においても非常用電源の重要性が認識されつつある。

非常用電源確保の現状・課題

- ①グリーンニューディール基金事業（H25～H27）により防災拠点等となる県や市町村等の77施設へ非常用電源となる太陽光発電等が導入されたものの、民間施設への導入は1件にとどまった
- ②福祉避難所や防災拠点に指定されていない医療施設では、ライフラインの確保のために県の支援を用いるなどして、非常用電源としてのポータブル発電機（1kW～2kWが主流）の導入が進んでいるが、出力は小さい

福祉避難所や防災拠点に指定されていない病院等において非常用電源の充実や多様化を望む施設がある

太陽光発電を活用した非常用電源導入アンケート（H30.10）

調査対象	325 機関（福祉避難所・病院等）
回答数	128 施設
導入を検討したい	19 施設

新エネルギー導入促進の現状・課題

太陽光発電の買取価格の低下や、無制限の出力制約の可能性から、固定価格買取制度を利用した売電事業の新規導入の動きが鈍っている

**今後の再生可能エネルギーの普及には
自家消費・地産地消の取組も必要**

対策

非常用電源となる自家消費型太陽光発電等を導入を支援

- 効果：①福祉避難所や医療施設における防災対応力の向上
②地球温暖化対策への貢献
③自家消費型太陽光発電の導入促進

制度概要

高知県福祉避難所等太陽光発電設備導入事業費補助金

対象施設：福祉避難所・病院等
対象経費：太陽光発電及び蓄電池設備の導入に係る経費
補助率：1/3以内
補助上限：5,000千円

<太陽光発電設備 10kW + 蓄電池設備 10kWhの事例>



※ 自立運転時に昼間(8時間)1.5kWの出力+蓄電池に7.5kWh充電

使用できる機器(1日の発電量19.5kWh)

【昼間：8時～16時（8時間）】

テレビ 170W 2台 8時間
ノートパソコン 40W 3台 8時間
携帯電話充電器 6W 10台 8時間
プリンター複合機 320W 1台 8時間
扇風機 60W 11台 8時間

計 12kWh+蓄電池へ7.5kWh充電

【夜間：16時～8時（16時間）】

テレビ 170W 1台 16時間
ノートパソコン 40W 1台 12時間
照明 32W 10灯 12時間

計 7kWh（蓄電池から供給）